

前回の推進委員会における委員および統括責任者からの主な意見

H25年度戦プロ利用枠の配分について。

[寺倉委員]	毎年同じパターンにする必要はないと思う。年度によってやり方を柔軟に考えた方が良くと思う。「京」が共用開始されて、研究が本格化し始める所で、すぐに評価等で負担を掛けても成果は上がらないのではないかと思う。もう少し各分野の自主的な運営で行わせて、1年程度はじっくり研究させて、その結果で判断する方が良く思う。
[土居主査]	各分野で考えた上で進めることができるような柔軟性はあった方が良く思う。
[中村委員]	重点配分というのは、その年ごとにある程度優れたものが出てくる可能性もあるので、あまり均一にすると、それが外には見えにくくなる気がする。そのため、分野別作業部会をうまく活用して、何らかの判断をした方が良く思う。加速枠についても、分野別作業部会が関われば、それなりの加速枠課題がきちんと決まるのではないかと思う。
[今脇分野3統括責任者]	分野側では、5年程度の研究計画を最初に立てて、最終年度にはこういう成果を出すということで計画を立てている。そこで、一般配分枠の計算資源が減ることで、当初立てた計画の実行が難しい状況になる。当初、各分野で10%ずつ使えると考えて計画を立てている。
[青木分野5統括責任者]	H24年度は、分野内で議論して計画を立てた直後に重点枠が設定され、一般配分枠が減らされた。1年目は早期に成果を出したいということで理解できるが、分野5については、社会的インパクトがあり、かつ、すぐに成果が出る課題となると限られてくる。選ぶにしても、成果が出る前にこれは良さそうだと判断するのではなく、成果が出てから判断される方が良く思う。違う分野同士で比較する場合に、分かりやすさで判断されてしまうと厳しい。
[矢川委員]	重点配分枠として、基礎的な学問を推し進める枠と、早期の成果創出を図る枠とで、数を定めて審査する方法もあると思う。

H25年度重点課題を審査する際の評価基準について。

[小柳委員]	H24年度優先課題の際は、早急性を重視。今回はどのように考えるべきか。学問的、社会的な意味ということになるのか、それとも、早期に成果が出てくるものを優先するかどうかで、制度そのもののニュアンスが変わる。
[平尾委員]	科学的な卓越性や、社会的なインパクトの強さというのが評価の基準になることは当然だが、「京」が動き出してまだ1年経っていないこともあり、「京」の重要性を国民にも理解してもらうという意味では、ある程度早期に成果が出るということも、指標の一つに入れた方が良く思う。

重点配分と加速枠の位置付けの違いについて。

[加藤分野4統括責任者]	重点配分と加速枠の位置付けの違いが明確に理解できておらず、重点配分も優先枠という意味では加速枠になるように思われ、どういう基準で判断されるのか分かりにくく、位置付けの違いを明確にして欲しい。
[土居主査]	重点配分は、分野内で重点的に実施する重点課題を決めて実施するもの。 加速枠は、重点課題と一般課題の利用状況から、もう少し加速させることで早期の成果創出を促すもの。